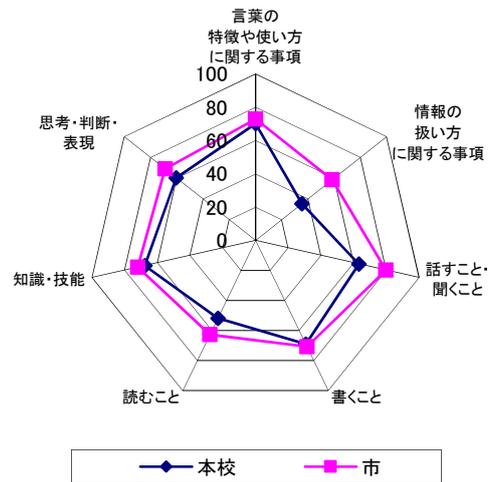


# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.2	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	35.4	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	63.2	79.8	75.9
	書くこと	69.1	70.7	71.7
	読むこと	51.8	62.8	62.5
観点別	知識・技能	67.7	72.0	74.4
	思考・判断・表現	60.4	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

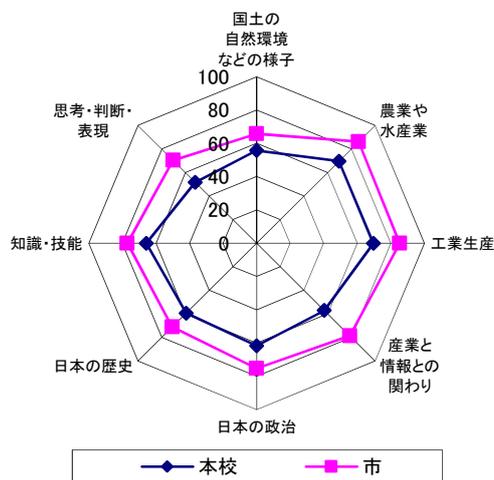
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の平均と比べて同程度の正答率であった。漢字の読み書きはほぼ市の平均正答率と同程度であった。新出漢字を丁寧に指導したことで、パソコンの漢字ソフトを利用し、児童に興味をもたせ学習に取り組ませた結果である。 ○言葉の学習の設問は、市の平均とほぼ同程度の正答率である。尊敬語の理解は、市の平均正答率を上回っていた。敬語の学習では、主語を意識させることで、尊敬語、謙譲語の理解を深めた。また、習得できるまで繰り返し復習を積んだ結果である。	・漢字の習得に関しては、宿題や自主学習で学年を下げ、繰り返し復習することで、確実に取得させていきたい。 ・マスターカード(学校共通復習プリント)を利用し、学年を下げ、苦手意識のある言葉の学習の復習を徹底させていきたい。
情報の扱い方に関する事項	●市の平均正答率と比べ、23.1ポイント下回っている。情報と情報の関係について正しく理解し、指示された内容に沿って文章にまとめることに苦手意識がある。また、無回答が12.5%いた。	・学年の発達段階に応じた資料について読み取る活動を取り入れ、他教科とも関連を図りながら、資料活用能力を高めていきたい。
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率と比べ、16.6ポイント下回っている。特に活用問題の互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめる設問では市の正答率を25.8ポイント下回っていて課題が見られる。	・学校全体で研究してきた学び合いの手法を生かし、ペアや小グループでの話し合い活動を効果的に授業に取り入れていくことで、話す力、聞く力を高めていく。 ・話すこと、聞くことの基礎を確実に身に付けられるように繰り返し指導していく。
書くこと	○市の平均と比べて同程度の正答率であった。自分の意見とその理由を明確に書く設問では、正答率が93.8%であった。意見文を書くときには、根拠となる事象をあげ、自分の意見に関連付けて書くことを丁寧に指導してきた。また、書くことが苦手な児童には教科書の例文を参考にさせ、意見文を書くことを繰り返し取り組ませてきた結果である。	・国語の時間だけでなく、他教科や行事などの機会を生かし、文章を書くことに慣れさせる。表現の幅を広げるために、語彙力を高める指導を学年の発達段階に応じて積極的に取り入れていく。
読むこと	●物語文、説明文共に正答率は市の平均を10ポイント以上下回っている。特に説明文の記述をもとに文章の内容を押さえることが身に付いていない。	・読み取る力不足は、学校全体の課題でもあるので、朝の読書や読み聞かせ、読書週間のイベントなどを利用して、いろいろな種類の書籍に触れる機会を増やし、読書の習慣をつけていく。 ・学年の発達段階に応じて、読解力を高める指導に力を注いでいきたい。

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	55.7	65.7	67.0
	農業や水産業	69.6	86.1	77.5
	工業生産	69.6	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	57.1	78.6	69.6
	日本の政治	61.6	75.2	65.8
	日本の歴史	59.4	71.1	69.1
観点別	知識・技能	65.8	77.0	72.8
	思考・判断・表現	51.8	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

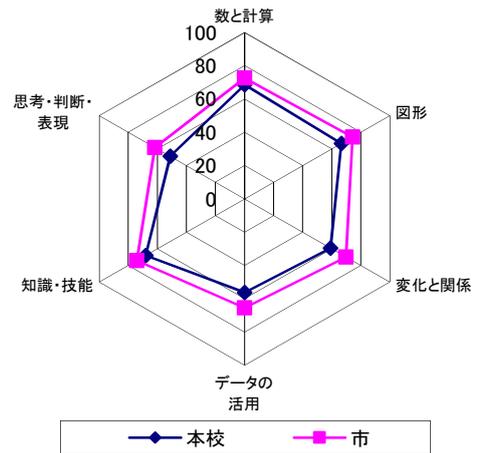
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の周辺の国と領土の端について理解しているかについての問題では、市の正答率を2ポイント上回った。授業の中で、名称を覚えるだけでなく、地図で場所を確認して指導を行ってきた成果であると考えられる。 ●森林を守るための間伐についての問題では、どのような目的で間伐が行われるを理解していない児童が多く、市の正答率を下回った。	・言葉だけではなく、それがどのような目的で行われるのか、どのような効果があるのかを抑えながら、授業を展開していく必要がある。
農業や水産業	○米作りの作業の理解のもとに、資料を読み取る問題では、正答率が83%であり市の平均を上回っている。地域的に農作業を日常的に見かける様子が多いことや、全校で取り組んでいるみどり活動での体験的学習の成果であると考えられる。 ●水産業の国内生産量と輸入量の変化について、資料を読み取る問題、食糧生産に関する地図を読み取る問題では市の正答率を下回った。	・グラフや地図を活用して、2軸の折れ線グラフの関連性や、資料の示す意味などを読み取る時間を計画的に設けていく必要がある。
工業生産	○環境に配慮して生産された自動車について考える問題では、正答率が市の平均を10ポイント上回った。電気自動車がどのように環境に配慮されているかを理解していることが分かる。	・工場見学など体験的な活動をできる限り取り入れたり、自分の生活と結び付けながら考えさせたりする指導をしていく。
産業と情報との関わり	○情報の正しい受け取り方を理解しているかの問題では、正答率が80%を超えている。情報モラル教育と関連させて、インターネットを使うよう指導した成果が表れている。 ●情報産業の役割や責任の大きさについて判断する問題の正答率は38%と、市の平均を大きく下回った。	・情報は「速く」「正確に」伝えることが大切であることを確認し、児童が、情報を発信する際にも、それを踏まえて発信するよう指導していく。
日本の政治	○国会の働きについて問う問題の正答率は、市の平均と同等となっている。司法・立法・行政のそれぞれについてどのような役割があるかを確認し、さらに理解を深めたい。 ●日本国憲法における天皇の地位について理解しているかの問題の正答率は、市の平均より大きく下回っている。	・大日本帝国憲法と日本国憲法を比べながら、違いについて押さえていくようにする。
日本の歴史	○前方後円墳の分布の資料を読み取る問題では、正答率が91%と、市の平均より7ポイント上回っている。日本地図をよく理解して資料を読み取ることができている。 ●聖武天皇の政治についての理解を問う問題では、正答率が38%であり、市の平均を大きく下回った。	・それぞれの時代に、どの人物がいてどのような働きをしたのかを再確認する必要があり、時代の様子と関連させながら理解していくようにする。

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.6	72.6	71.6
	図形	66.7	74.4	72.0
	変化と関係	59.2	69.8	62.6
	データの活用	56.3	65.5	59.1
観点別	知識・技能	67.9	74.1	68.9
	思考・判断・表現	51.2	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

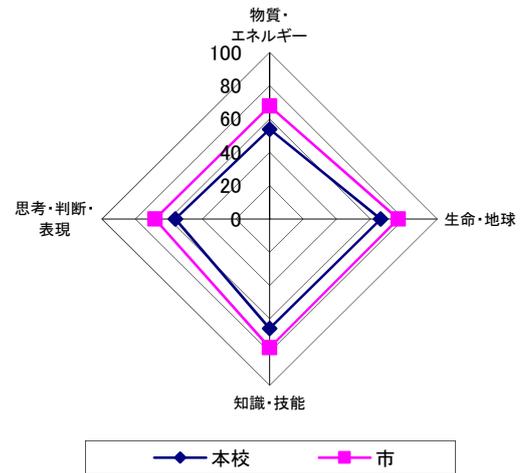
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○約分のない分数のかけ算の計算では、正答率が100%、小数のわり算の計算では、正答率が91.7%であり、計算の基礎について理解していることが分かる。 ●分数のわり算の文章問題にあった図を選ぶ問題では、市の正答率を大きく下回っている。問題の場面を正しく把握したり、正しい式を立てたりする力に課題が見られる。	・基礎的な計算能力を定着させるために、引き続き全校体制で取組を継続していく。 ・分数の計算に苦手意識をもつ児童が多いため、今後も計算練習を継続するとともに、問題を図に表したり、図から式を立てたりできるよう指導する。
図形	●図形領域については、全ての問題で市の正答率を下回っている。特に、三角柱の展開図から見取図の辺の長さを読み取る問題や、線対称な図形について対称の軸が何本あるかを求める問題で大きな差が見られる。図形を見て必要な辺の長さを見つけたり、図形を頭の中でイメージして動かしたりする力に課題が見られる。	・展開図と見取図、線対称と点対称の図形の基礎について改めて復習をする。 ・図に数を書き込んだり、色分けをしたりして、図形から必要な辺の長さを見つけられるよう指導する。
変化と関係	○50mを走る記録から速さを求める計算では、わずかに市の正答率を上回っている。 ●値に0がある平均を求める問題や、同時にゴールするために、二人の走る速さから走る距離を求める問題で、市の正答率を大きく下回っている。単位量あたりの大きさを求める力に課題が見られる。	・単位量あたりの大きさ、速さの基礎について改めて復習をする。 ・複雑な条件の問題は図や絵を使って整理し、問題を正しく理解できるよう指導する。
データの活用	○折れ線グラフを読み取る問題では、市の正答率とほぼ同じである。 ●棒グラフを読み取る問題や、割合の大小について具体的に説明する問題で、市の正答率を大きく下回っている。割合を求めたり、式などを活用して説明したりする力に課題が見られる。	・割合の基礎について改めて復習をする。 ・考えを説明することについては、これまで力を入れて取り組んできたが、苦手意識が強い児童も多い。今後もこの取組を継続し、「思考・判断・表現」の力の育成を図る。

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	53.9	67.8	64.1
	生命・地球	66.3	76.7	78.3
観点別	知識・技能	65.8	77.4	78.3
	思考・判断・表現	56.1	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○物の燃え方については、市の正答率に近い項目が多くなっている。糸を引いていくと振り子の周期がどのように変わるかを説明する問題ではほぼ市の正答率と同じである。</p> <p>●前学年の学習内容の定着が不十分な面が見られる。思考・判断・表現の観点で見ると市の正答率より10ポイント以上、下回ってしまうものが多く見られる。</p>	<p>・資料や実験結果などから読み取れることを、小グループなどで議論するとともに、全体で共有化していく。学習で得た知識を何となく書いたり、聞いたりするのではなく自分自身の言葉で再表現することで学習内容の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>○動物のからだのつくりとはたらきについては、市の正答率を10ポイント以上、上回るものや、ほぼ同程度の正答率のみになっている。生物と空気との関りを答える問題では、市の正答率を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●前学年の学習内容の定着が不十分な面が見られる。知識・理解が不十分な項目が多く見られる。</p>	<p>・ポイントを押さえた授業を展開し、最低限覚えるべき知識を明確に示す。単元終了後も定期的に知識の確認を行えるようなシステムを学校全体として構築していく。</p>

## 宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)子どもが「わかる」「できる」と感じられる授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 付けたい力の明確化</li> <li>② 基礎・基本の知識・技能をしっかりと身に付ける授業の流し方の徹底</li> <li>③ 豊かな発想やしっかりした自分の考えを引き出す対話</li> <li>④ 言語能力の育成</li> <li>⑤ 学力の差への手立て</li> </ul>	<p>・漢字の読み書き、言葉の理解、計算の基礎などが市の平均程度の正答率となり基礎的な知識技能が、身に付きつつある。しかし、情報の扱いに関する事項やデータの活用に関する問題など、思考を必要とする課題に対して苦手意識がある。さらに、読解の問題の理解が十分でない。読解力については、学校全体をみても低い傾向がある。</p>
(2)学び合いがある授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学び合いを通して深い学びにつながる課題設定の工夫</li> <li>② 効果的な学び合いの場の設定</li> <li>③ 確かな学びにつながる振り返りの工夫</li> </ul>	<p>・学び合いの手法に慣れ、友達の考えを自分の課題解決に生かせるようになってきた。理科の資料や実験結果などから読み取れることを、小グループなどで議論するとともに、全体で共有化する活動を通して、「物の燃え方」の設問などで市の平均正答率に迫ってきている。しかし、「話すこと、聞くこと」の領域の正答率が市の平均正答率を下回っている。特に自分の考えをまとめる設問の正答率が低い。学校全体でみて、学力の差が大きく学び合いが一方的な教え合いになったり、既習の内容を生かした確かな判断をして、自分の意見を主張したりすることが苦手な傾向がある。また、学び合いを支える「表現する力」に課題がみられる。</p>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

引き続き基礎学力の定着を図る取組を充実させる。学習意欲は学年が上がるにつれ下がる傾向がある。また、苦手意識のある教科も増えてくる傾向があるので、学力の差に応じた手立てを充実させ、「わかる、できる」と児童が実感できる深い学びのある授業を展開していく。さらに、主体的、対話的な深い学びを追究していくための手立てを学校全体で取り組んでいく。特に苦手意識のある算数を中心に、学び合いの質を高めるための表現力の育成に努めていく。